

【目的】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

目標に準拠した観点別学習状況評価の取組、ICT環境を生かした指導の工夫

【領域】

球技：ネット型（テニス）

1 実施の概要

- (1) 実施環境：体育館（Wi-Fi環境なし）、オフラインでの使用
- (2) 使用機器：タブレット（グループで2台）
- (3) 活用ソフト：プレゼンテーションソフト、カメラ機能（動画撮影）、動画遅延ソフト
- (4) 対象：入学年次の次の年次（3年次） 女子生徒41名

2 活用の実際

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践

【学習の流れ】

【導入】

本時の目標
内容の確認

【展開】

フォームの確認
ストローク練習



【まとめ】

本時の振り返り
次時の説明

【活用場面】 場面：展開

ストロークフォームのポイントを理解するため、示範の動画を作成しスクリーンに投影したり、実際にテニス部員に実践させ、技能のポイントを確認させた。

ストロークを行う姿を撮影し、グループで映像を確認し、ストロークフォームやボールの変化に対応したストロークができているか話し合わせた。また、動画遅延ソフトを活用したカメラを1か所設置し、ストローク後すぐに映像を確認させ動きの確認ができるよう工夫した。

【活用場面写真等】



(2) ICTを活用した観点別学習評価の取り組み

【観点別学習状況評価】

技能

【評価規準】

ボールをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートへ打ち込むことができる。

【活用方法】

- ①ストローク練習をタブレットを活用して撮影させた。授業においては、観察による評価を実施した。
- ②授業後、タブレットに保存された動画を確認することで、授業中の観察による評価との整合性を図った。

【活用場面写真等】



3 参加した生徒の感想等

- ・今まで返球する方向が安定せずミスが多くありましたが、自分の動画を見てラケットの向きや1バウンド目に近づきすぎてしまって手首を使って返球していたことに気付くことができました。その正しいフォームのポイントを意識したら何度かうまく返球することができて嬉しかったです。
- ・模範となる映像やテニス部のストロークを見て、より良いイメージを持って練習に取り組むことができました。
- ・グループで自分や仲間のフォームを確認し、出来ているところを褒め合ったり、仲間の課題を見つけてアドバイスしたり、楽しみながらも上達することができました。
- ・自分のタブレットに動画を保存していたので、時間があるときに見返して、次の時間のリーグ戦に活かすことができました。

4 成果と課題

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践

【成果】

ストロークフォームについて示範動画の作成や、テニス部員の見本を示したことにより理想のフォームを理解できるよう工夫した。ストローク練習を撮影した映像を活用しグループで話し合わせることで、互いの良い点を褒め合ったり、改善点をアドバイスしたりするなど、自らの課題解決に向けて主体的に取り組む姿がみられた。

【課題】

体育館のWi-Fi環境が悪く、動画遅延ソフトが途中で利用できなくなり、動画の確認ができなくなってしまうことがあった。

ICTを活用することにより、活動量の確保ができないことがあった。ICTを、いつ、どのように、利用するか工夫が必要である。

(2) ICTを活用した観点別学習評価の取り組み

【成果】

授業での観察による評価の機会だけでは、技能を評価する際、十分な評価ができないこともあったが、各自のフォームを保存した動画を授業後に見直すことにより、生徒の技能習得度を確認することが可能になり、より正確な評価につながった。

【課題】

撮影する場所を固定していたため、評価する際に見たい角度が見えない場面があった。今後は撮影する場所等を工夫する必要がある。